

技術情報

J A全農やまぐち

TAC 営農推進課 (083-988-0681)

平成 27 年 8 月 17 日 発行

第 208 号

ダイズ、野菜類、花き類におけるハスモンヨトウ、 ウワバ類、オオタバコガ等の防除対策

ハスモンヨトウ、ウワバ類、オオタバコガ等の発生が増加していることから、8月12日付で、技術資料が発表されました。

つきましては、下記及び病害虫防除所発表の「発生予察技術資料第8号(写)」を参考に、被害防止に万全が期されるようご指導をお願いします。

記

1 今後の予想

- (1) **対象作物** **ダイズ、野菜類及び花き類**
- (2) **発生量** **やや多**

2 防除対策

(1) 防除時期

ハスモンヨトウ：8月中旬及び9月中旬（若齢幼虫最盛期）

ウワバ類等：多発生を認めた時

(2) 防除の目安

ダイズのハスモンヨトウでは、白変か所数が1a当たり5か所以上

(3) 防除薬剤

ダイズ：ダイズのハスモンヨトウの地上散布剤

野菜類：野菜類のハスモンヨトウ、オオタバコガに適用のあるセル苗灌注剤

主要野菜のハスモンヨトウ防除薬剤

主要野菜のオオタバコガ防除薬剤

3 防除上の留意事項

(1) ハスモンヨトウ

- ・ダイズ、野菜類及び花き類等多くの作物を加害する。
- ・卵塊で産卵されるため若齢幼虫の加害で葉が白変するので、ほ場をよく観察し、薬剤の効果が高い若齢幼虫期に防除する。特に、結球する野菜では幼虫が大きくなると結球部に食入するので、結球前の防除を徹底する。
- ・野菜類では育苗期のセル苗灌注処理に長い残効性が期待される。ただし、抵抗性の発達を避けるため、本圃では同系統の薬剤の使用を避ける。

(2) オオタバコガ

- ・野菜類及び花き類を加害する。
- ・幼虫が大きくなると薬剤が効きにくくなるのことが及び作物体内に潜る性質から、若齢幼虫期に防除する。特に、結球する野菜では結球前の防除を徹底する。

(3) ウワバ類

- ・野菜類の他ダイズで多発することもある。
- ・適用農薬は少ないが、一般にハスモンヨトウ、オオタバコガとの同時防除が可能である。

ダイズのハスモンヨトウの地上散布剤

(平成27年農作物病害虫・雑草防除指導基準)

系統	殺菌剤	殺虫剤	商品名	希釈倍数・使用量 散布液量	使用時期 (収穫前日数)	使用 回数	使用 方法	成分含む 使用回数	備考
----	-----	-----	-----	------------------	-----------------	----------	----------	--------------	----

殺虫剤

ピレスロイド		3A	トレボン乳剤(普)(B)	1000倍, 100~300リットル/10a	収穫14日前まで	2回以内	散布	エトフェンブロックス2回以内	—			
マクロライド		6	アニキ乳剤(普)(C)	2000~3000倍, 100~300リットル/10a	収穫前日まで	3回以内	散布	レピメクチン3回以内	—			
生物農薬		11A	フローバックDF エコマスターBT(-)(-)	1000倍	発生初期(但し、 収穫前日まで)	—	散布	BT-	—			
IGR	15		アタブロン乳剤(普)(B)	2000~4000倍, 100~300リットル/10a	収穫14日前まで	2回以内	散布	クロルフルアズロン2回以内	—			
			ノーモルト乳剤(普)(B)	2000倍, 100~300リットル/10a	収穫14日前まで	2回以内	散布	テフルベンズロン2回以内	—			
			マッチ乳剤(普)(A)	3000倍, 80~300リットル/10a	収穫7日前まで	2回以内	散布	ルフエヌロン2回以内	—			
			カスケード乳剤(普)(B)	4000倍, 100~300リットル/10a	収穫7日前まで	2回以内	散布	フルフェノクスロン2回以内	—			
	18		マトリックフロアブル(普)(A)	2000~3000倍, 100~300リットル/10a	収穫前日まで	3回以内	散布	クロマフェノジド3回以内	—			
			ロムダンゾル(普)(A)	1000倍, 150~300リットル/10a	収穫14日前まで							
			ロムダンフロアブル(普)(A)	2000倍, 100~300リットル/10a						3回以内	散布	テプフェノジド3回以内
			ロムダン粉剤DL(普)(A)	4kg/10a								
ジアミド	28		フェニックス顆粒水和剤(普)(B)	2000倍, 100~300リットル/10a		収穫7日前まで	3回以内	散布	フルベンジアミド3回以内			
			ベガサスフロアブル(普)(B)	2000~4000倍, 100~300リットル/10a	収穫7日前まで	3回以内	散布	フルベンジアミド3回以内	—			
			フェニックスフロアブル(普)(B)	4000倍, 100~300リットル/10a	収穫7日前まで	2回以内	散布	クロラントラニプロール2回以内	—			
			プレバゾンフロアブル5(普)(B)	4000倍, 100~300リットル/10a	収穫7日前まで	2回以内	散布	クロラントラニプロール2回以内	—			
—		22A	トルネードエースDF(普)(B)	2000倍, 100~300リットル/10a	収穫7日前まで	2回以内	散布	イトキカル [®] 及びイトキカル [®] MP2回以内	—			
—		22B	アクセルフロアブル(普)(B)	1000~2000倍, 100~300リットル/10a	収穫前日まで	3回以内	散布	メタフルミゾン3回以内	—			
—		不明	プレオフロアブル(普)(B)	1000~2000倍, 100~300リットル/10a	収穫7日前まで	2回以内	散布	ピリダリル2回以内	—			

殺虫殺菌剤(殺虫剤+紫斑病)

ピレスロイド, ステロール合成阻害		33A	マネージトレボン粉剤DL(普)(B, B)	4kg/10a	収穫30日前まで	2回以内	散布	エトフェンブロックス2回以内, イベンコゾール2回以内	—
-------------------	--	-----	-----------------------	---------	----------	------	----	-----------------------------	---

主要野菜類のハスモンヨトウ、オオタバコガに適用のあるセル苗灌注剤(上段:ハスモンヨトウ、下段:オオタバコガ)

平成27年8月14日現在

系統	剤	商品名	使用倍率	適用作物と使用量(注)					使用時期 (収穫前日数)	使用回数	成分を含む 薬剤の 総使用回数	
				キャベツ	ハクサイ	ブロッコリー	カリフラワー	レタス				非結球レタス
ネオニコチノイド	4A	スタークル顆粒水溶剤(普)(A) アルバリン顆粒水溶剤(普)(A)	50	/	/	/	/	0.5	0.5	定植前日~定植時	1回	4回以内
ネオニコチノイド ジアミド	4A 28	キックオフ顆粒水溶剤(普)(B, A)	100	0.5	/	0.5	/	0.5	0.5	定植前日~定植時	1回	クロラントラニプロールは4回以内、ジノテフランはキャベツ、ブロッコリーは3回以内、レタス、非結球レタスは4回以内
ネオニコチノイド ジアミド	4A 28	ジュリボフロアブル(普)(B, A)	200	0.5	0.5	0.5	/	0.5	0.5	育苗期後半~定植当日	1回	クロラントラニプロールは4回以内、チアトキサムはレタス3回以内、非結球レタスは1回、他は4回以内
ネオニコチノイド ジアミド	4A 28	セルオーフロアブル(普)(A, B)	100	0.5~1	0.5~1	0.5~1	/	0.5~1	0.5~1	定植3日前~定植時	1回	イダクプロリドはブロッコリー4回以内、他は3回以内。フルベンジアミドはキャベツ、ハクサイ4回以内、他は3回以内
ジアミド	28	プレバゾンフロアブル5(普)(B)	100	0.5	/	0.5	/	0.5	0.5	育苗期後半~定植当日	1回	4回以内
ジアミド	28	ベリマークSC(普)	400	0.5	0.5	0.5	/	0.5	0.5	育苗期後半~定植当日	1回	非結球レタス1回、他は4回以内

(注)使用量はセル成型育苗トレイ1箱またはペーパーポット1冊(30×60cm、使用土壌約1.5~4.0)当たり(リットル)

平成27年度農作物病害虫発生予察技術資料第8号

平成27年(2015年)8月12日
山口県病害虫防除所

ハスモンヨトウ、ウワバ類、オオタバコガ等の発生と防除対策

ハスモンヨトウ、ウワバ類、オオタバコガ等のチョウ目害虫の発生が増加しているため、以下のとおり防除対策の徹底をお願いします。

1 発生状況

(1) ハスモンヨトウ

ア 8月5日～7日の巡回調査では、ダイズでの発生ほ場率26.3%（平年16.9%）、1a当たり白変か所数は0.4か所（平年0.2か所）で平年に比べやや多かった。主な齢期は若齢幼虫であった。

イ 山口市大内のフェロモントラップにおける7月11日～8月10日の誘殺数は、2,215頭（平年1,524頭）で平年に比べやや多く、7月下旬及び8月上旬に誘殺ピークが認められた（図1）。

(2) ウワバ類、オオタバコガ等のチョウ目害虫

8月5日～7日の巡回調査では、ダイズでの発生ほ場率73.7%（平年74.8%）、払い落とし虫数は1.3頭/m²（平年1.7頭/m²）で平年に比べやや多かった。主な齢期は若齢幼虫であった。

2 今後の予想

(1) 対象作物 ダイズ、野菜類及び花き類

(2) 発生量 やや多

(3) 予想内容 気象予報では、今後1か月の気温は平年並みまたは高いと予想されていることから、今後、本虫による被害の発生が懸念される。

3 防除対策

(1) 防除時期

ハスモンヨトウ 8月中旬及び9月中旬（若齢幼虫最盛期）（図2）

ウワバ類等 多発生を認めたとき

(2) 防除の目安

ダイズのハスモンヨトウでは、白変か所数が1a当たり5か所以上

4 防除上注意すべき事項

(1) 発生量は地域やほ場によりばらつきがあることから、ほ場をよく観察し、若齢幼虫期に薬剤防除を実施する。ウワバ類やオオタバコガの被害では白変葉とならないため、防除が遅れないよう注意する。

(2) ハスモンヨトウは施設栽培では、葉の裏や鉄骨パイプ等に産卵することが多いので、黄褐色の毛で覆われた卵塊を見つけて除去する。

(3) 薬剤抵抗を発生させないため、同一系統の薬剤の連用を避け、ローテーション散

